

りあん

～きずな～

Vol.7
2017



会員数 H29.6.30
施設会員…269施設
個人会員…6人
団体・賛助会員…5施設

平成29年度 一般社団法人 愛知県訪問看護ステーション協議会通常総会開催

日時 平成29年4月22日 場所 伏見ライフプラザ鯉城ホール

一般社団法人として初めての通常総会が、出席者104名、委任状84名で開催された。鈴木正子会長より「訪問看護の質向上」「訪問看護事業の調査研究」「訪問看護教務の改善及び普及啓発」などの活動を推進し、一般社団法人としてこの協議会を発展させていきたいことが挨拶で話された。議事は提出議案通りに進められ、新役員17名が誕生した。

提出議案

- 報告事項1 平成28年度事業報告
- 報告事項2 平成28年度決算報告
- 報告事項3 監査報告
- 報告事項4 平成29年度事業計画
- 報告事項5 平成29年度収支予算

一般社団法人設立 記念講演

命に寄り添う訪問看護～ファイナダー越しの看取りの現場～

写真家・ジャーナリスト 國森写真事務所 代表 國森康弘氏

國森氏は、月刊誌「訪問看護と介護」に「終える命 つなぐいのち」のテーマで写真が連載され、また写真絵本『いのちつぐ「みとりびと」』も出版しています。講演の中で、東北大震災のファイナダーを通して見た世界は、より現実近く胸に迫るものがありました。

在宅看取りの場面は、日常的に訪問看護師が感じていることを、國森氏が同じような目線で見ていく温かさを感じることができました。避けて通ることのできない死は、かつての日本では日常で体験することができていたものでした。しかし、病院死が大半を占める現在では全く経験することなく大人になっていきます。國森氏が出会った「恋ちゃん」という幼い女の子は、在宅で祖母を看取る中で感じてほしい事を、小さいながらに十分感じ成長していました。國森氏の静かな語りは、私たちが在宅医療従事者に対するエールのようで、授かった命を生き抜き、次の世代へ命を繋ぎ渡し逝く…。尊いいのちのバトンリレーに携わる私たちに、魂が揺さぶられる素敵な時間を頂いた講演でした。

(研修委員 朝倉清美)

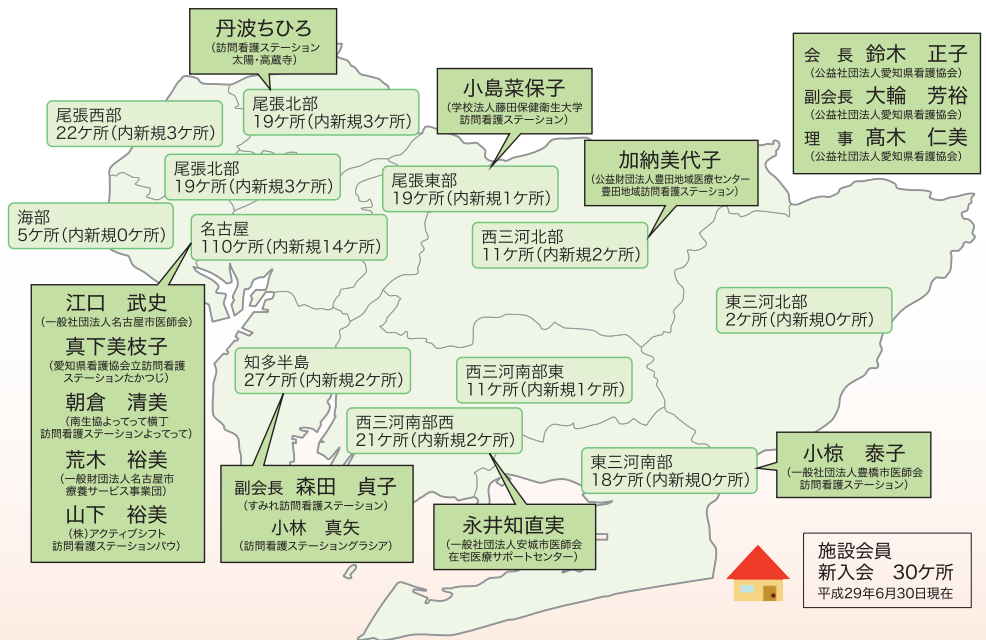


一般社団法人 愛知県訪問看護ステーション協議会 役員・会員情報

愛知県訪問看護ステーション数は(平成29年4月1日現在)575、愛知県訪問看護ステーション協議会では、平成29年6月30日現在268施設が会員ですので、入会率は46.6%です。

入会率すなわち組織率の向上は、協議会の発展、ひいては訪問看護の進展につながりますので、既存のステーションも新規のステーションも会員となり、一緒に活動できるよう皆さまよりご紹介いただけますと幸いです。

入会方法や協議会へのご要望は、ホームページや会員名簿でお近くの役員までお尋ねください。



会長 鈴木 正子
(公益社団法人愛知県看護協会)
副会長 大輪 芳裕
(公益社団法人愛知県看護協会)
理事 高木 仁美
(公益社団法人愛知県看護協会)

江口 武史
(一般社団法人名古屋医師会)
真下美枝子
(愛知県看護協会立訪問看護ステーションたかつし)
朝倉 清美
(南生協よってつて横丁訪問看護ステーションよってつて)
荒木 裕美
(一般社団法人名古屋市療養サービス事業団)
山下 裕美
(株)アクティフソフト
(訪問看護ステーションパワ)

施設会員
新入会 30ヶ所
平成29年6月30日現在



愛知県訪問看護ステーション実態調査報告

平成29年2月に行われた実態調査の概要について報告します。
 詳細につきましては後日、当協会のHPに掲載させていただきます。
 (業務委員長 永井知直実)

調査対象

実施期間 平成29年2月～3月
 平成28年12月現在愛知県へ届出のある訪問看護ステーション555箇所
 回収数 216箇所 (回収率 38.9%)

ステーション概要 (図1) (図2)

所在地は尾張21.3%、名古屋東19%、名古屋西16.2%、西三河13.4%の順に多かった。名古屋が半数を占めていた。開設は2010年～2016年に開設したステーションが多く52%だった。開設主体は会社法人が39%と多く、その次に医療法人30%だった。小児訪問看護は超重症児47施設、準重症児47施設が実施していた。精神科訪問看護の実施施設は68施設だった。

管理者について (図3)

管理者の経験年数は1～3年未満が32%、1年以内が21%で、双方で53%と3年未満が半数を占めていた。性別は女性96%と圧倒的に女性が多かった。

人員 (図4)

常勤換算従事者数(看護)は3～5人が33%と一番多く、次いで5～7.5人が29%で7.5～10人が14%と中規模・大規模のステーションが多かった。事務職員の有無は有57%、無43%であった。補助者の有無は有4%、無し96%であった。

サービス提供体制加算の状況 (図5)

加算有43%、加算無54%だった。

看護体制強化加算について (図6)

加算有17%、加算無80%だった。算定できない理由はターミナルケア加算が算定できない、人材不足、オープンしたてで利用者が少ないため等だった。

機能強化型訪問看護管理療養費 (図7)

機能強化型訪問看護管理療養費の届出状況については、届出有が24%、届出無が72%。有の内訳は機能強化型Iが15%、機能強化型II 9%であった。機能強化型の算定ができない理由は要件の変動が大きい、常勤数が少ない、ターミナル件数が少ない、24時間対応のステーションではないため等の理由があった。

訪問看護師の人員 (図8)

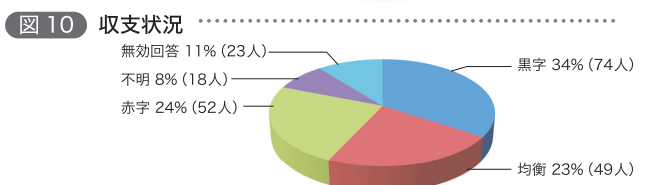
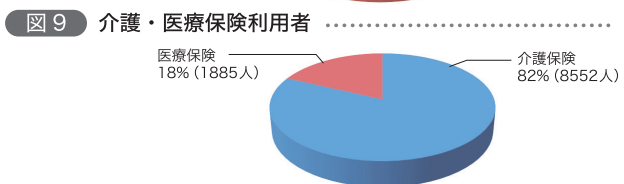
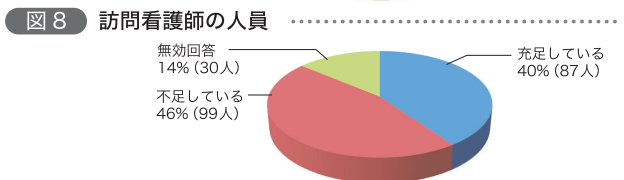
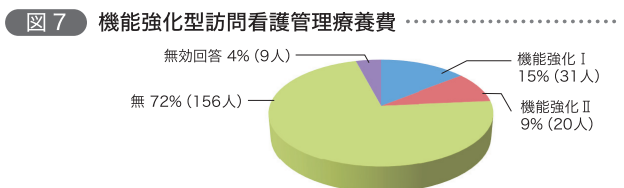
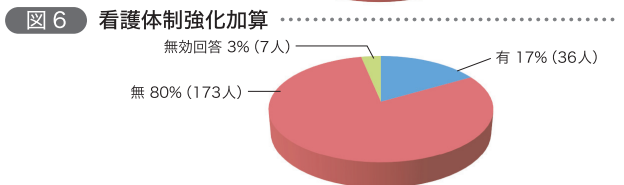
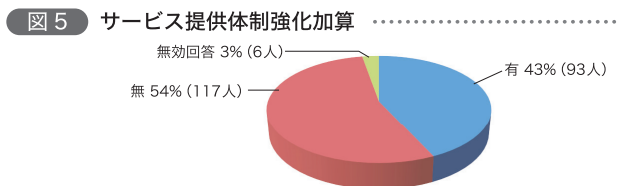
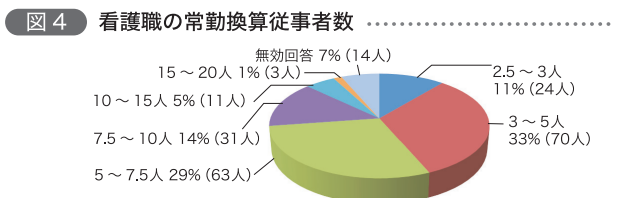
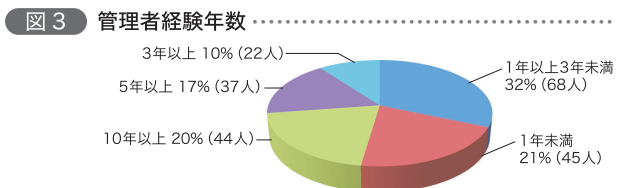
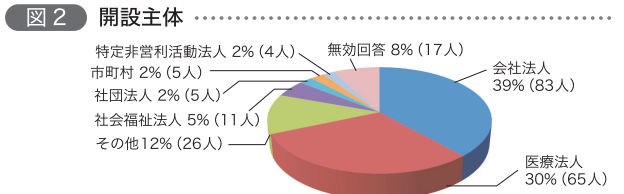
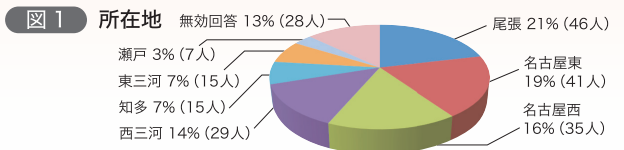
充足している40%、不足している46%、未回答14%だった。不足している理由は募集しているが応募がない、即戦力となる人材がない、採用してもすぐやめてしまう等であった。

訪問看護の保険別利用者割合 (図9)

介護保険82%、医療保険18%だった。

訪問看護の収支実績 (図10)

黒字が34%、均衡23%、赤字24%だった。経営管理で困っていることは人員が不足している、利用者が少ない、24時間体制の負担が大きいなどであった。



● 居宅介護支援事業所の併設 (図11)

併設有が48%、無が51%だった。

● ケアマネジャーの兼務 (図12)

兼務有8%、無が90%だった。

● 定期巡回型訪問介護看護の指定 (図13)

指定有8%、指定無が89%だった。

● 保険契約外の訪問 (図14)

有が22%、無が72%。保険契約外の内容は自費での訪問看護・リハビリ、営業日外利用料、死後処置、受診・通院介助補助者対応、医療保険の日祝日訪問があった。

図11 居宅介護支援事業所の併設

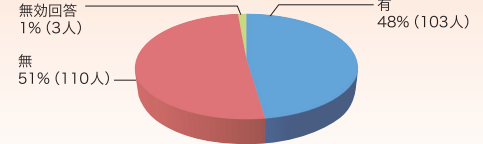


図12 ケアマネジャーの兼務

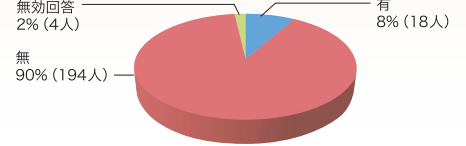


図13 定期巡回型サービスの指定

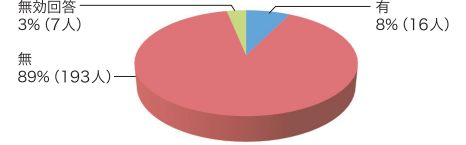
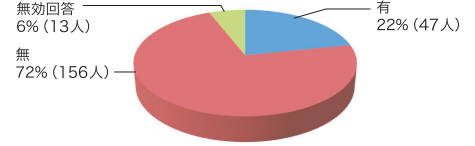


図14 保険契約外訪問



平成29年度 第1回訪問看護連絡協議会全国会議報告

平成29年5月11日、日本看護協会JNAホールにおいて上記会議が行われ、全国から各看護協会在宅分野の担当者と訪問看護連絡協議会員が集まりました。

会議では、訪問看護協議会の活性化、今後の訪問看護の事業展開・人材確保等の方向性について情報共有が行われました。日本看護協会からは今後の訪問看護の需要にこたえるために「人材確保」「管理者教育」を推進していくことが説明されました。

また小規模な事業所が多い訪問看護ステーションが労務管理の視点、雇用改善への取り組みが推進されるよう勤務環境改善支援センターなどを積極的に活用していくことについて情報提供がありました。

その他、サービスの質管理として訪問看護実践の成果を可視化する「オマハシステム」(後述)の紹介、人材確保に向けた新たな取り組みとして「病院から訪問看護ステーションへの看護師出向制度の取組」が紹介されました。

その後のグループ討議での情報共有では訪問看護分野での全国の人材確保対策の現状を共有することができました。

(理事 荒木裕美)

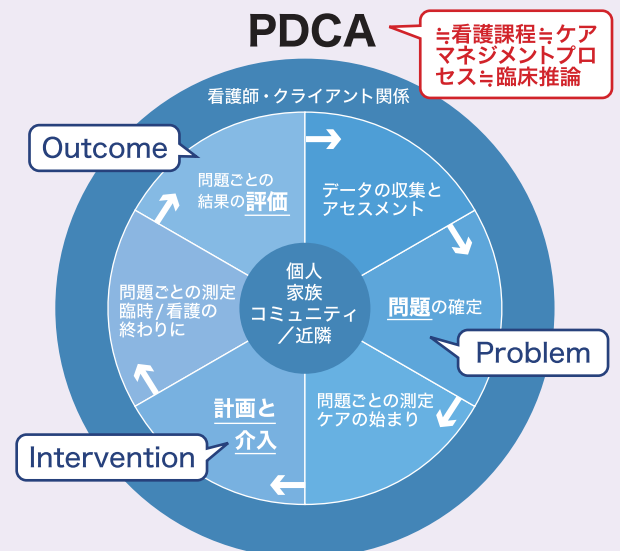
訪問看護実践の成果を可視化する「オマハシステム」とは？

一般社団法人オマハシステムジャパン発起人理事 みんなのかかりつけ訪問看護ステーション 藤野 泰平

世界的に高齢化社会に向けた効率的な資源運用に向けて従来の出来高払いから、より確かな最善の実践による効果に対価を払う仕組みへの転換が起きており、在宅医療・ケアの領域においても、専門職が実践プロセスやアウトカムを記述し、自らの臨床活動の意義を可視化していくことが求められています。「見える化」のためのツールプライマリ・ケア国際分類(ICPC)と、米国発祥の地域看護の分類ツールであるOmaha System が基礎教育や現場で活用され始め、NANDAからの移行が一部始まっています。

オマハシステムはもともと在宅看護、公衆衛生分野で活動する地域医療保健に関わる多職種で利用できるように設計されています。それに加え、アウトカムを定量的に表現できることが特徴です。医療の質が測れないものは、改善できないという考え方があるように、成果が測れるオマハシステムは、政策や制度に組み込まれるエビデンスを生成としても使用が可能であり、オランダではケアの質の向上、在宅医療費の大幅削減、利用者満足度の向上につながり、制度を変えるになりました。

オマハシステムは、①問題、②介入、③成果の3つのカテゴリーからできています。図のようなPDCAサイクルを回していくことで、質の改善をしていきます。問題は、領域>問題>徴候/症状に分かれており、問題を同定します。また問題に合わせて、介入リストがあるため、それを見ながら、利用者へ合った形での介入プランを作成します。そして成果は、理解-態度-状態の3つのカテゴリーで5段階評価を行い、この評価が、2点間、3点間で改善したのか、悪化したのかで、介入の成果をモニタリングすることができます。詳細の内容は、雑誌「訪問看護と介護」に連載しております。また、私どものステーションでは、実際の現場で使用しております。早く皆様が使用できるように、当法人としてもガイドブックの準備をしておりますので、進捗情報は、オマハシステムジャパンのHPをご参照頂ければ幸いです。





精神科訪問看護療養費算定研修報告

日時 平成29年5月13日～14日・5月27日 参加者 107名

定員の100名を大きく超える申し込みがあり、精神科訪問看護への関心の高さが感じられました。幅広く、偏りなく参加して頂けるように調整した結果、看護職92名、作業療法士15名の計107名での研修会となりました。

3日間の研修は、疾患の理解から訪問看護の展開、事例のグループワークと、とても密度の濃いものでしたが、皆さん集中して受講されていました。

「強みに着目する」というグループワークは、対象者だけでなく訪問看護の強みにも気づき、新たな発見が多くあったのではないのでしょうか。今後もより良い研修となるよう計画していきたいと思えます。

(研修委員 岩野ミカ)



「なんでも相談」開始のご案内

平成29年9月より「なんでも相談」を始めます。

相談対象者 愛知県訪問看護ステーション協議 会会員

相談対応者 業務委員

相談方法 所定の用紙に相談内容を記入し、協議会へ送付

お願い 相談業務は時間を要します。そのため、即日回答に依ることができませんので、その点ご理解の程よろしくお願いたします。また、直接電話での相談は受け付けておりませんので重ねてお願いたします。



訪問看護師の質向上のための研修会

【日時】平成29年12月9日(土) 1日

【場所】名古屋第二赤十字病院研修室

【内容】小児訪問看護研修会～ステップ2 実践力向上に向けて～(演習あり)

【講師】名古屋第二赤十字病院 新生児集中ケア認定看護師 八田 恵利氏

平成30年度診療報酬・介護報酬同時改定研修会

【日時】平成30年3月25日(日)

【場所】名古屋市立大学病院 3階大ホール

【講師】日本訪問看護財団 常任理事 佐藤美穂子氏

～多数のご参加お待ちしております～

訪問看護普及講演会お知らせ

information

たくさんの県民の方々に訪問看護を知っていただくため、本年度も訪問看護普及啓発活動を行います。本年度は名古屋地区、知多半島地区の実施を予定しています！メインテーマを「地域住民の方々とアドバンスケアプランニングについて一緒に考えよう」と題して、講師の先生をお招きしてのミニ講演会を行います。また、訪問看護の紹介も地域住民参加型のゲーム、クイズ方式で楽しく行っていくと趣向を凝らしています。より多くの県民の方々に訪問看護を知っていただくよい機会になるよう企画します。

第1回 名古屋地区 平成29年11月21日(火) 13:00～(場所) 名古屋市千種区 名古屋市療養サービス事業団まちかど保健室

第2回 知多半島地区 平成30年 1月27日(土) 13:00～(場所) クラシティ半田

お知らせ(会員名簿について)

ステーション協議会では最新の会員施設情報を提供するために、以下の項目をHPに掲載予定です。掲載項目は①会員番号②施設名③郵便番号④所在地⑤電話番号です。HPへの掲載を希望されない施設は、9月末までにご連絡ください。

ホームページの紹介

今春より一般社団法人化され、ホームページも一層充実させていきます。訪問看護師・訪問看護施設の環境整備・発展を目指し様々な情報を発信しています！ぜひご覧下さい!! (<http://aichi-vhc.com>)



編集後記

平成29年4月より当協議会が一般社団法人となり、新たな出発を致しました。それに伴い理事や各委員会のメンバーも変わりました。

訪問看護は、地域包括ケアシステムにおいて中心的な役割を担っているとされています。この大切な時期に法人として活動を始められたことを嬉しく思います。会報誌「りあん」も新たな出発をしていきたいと思っています。お楽しみに(^_^)☆

一般社団法人 愛知県訪問看護ステーション協議会

〒466-0054名古屋市昭和区円上町26-15高辻センター 3階(※6月より移転しました)

TEL:052-746-6007 FAX:052-746-6011 <http://aichi-vnc.com>

発行責任者/鈴木正子 発行日/平成29年8月31日

